

## (様式1) 実施報告書

### 1 応募者情報

#### (1) 応募者団体情報

団体名	神戸市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

#### ①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

#### ②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

### 2 事業の概要

#### (1) 全体概要

①事業の名称	神戸市における地域日本語教育体制整備事業
②目的等	
1 目的 （『生活 Can do』を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供を目的とした取組を含め記載） 日本語が十分でないために地域社会への参加をためらっている外国人やその家族などの言語的マイノリティーが自分の声を持てるようにすることが本事業の目的である。それらの人々が日本語学習を希望する際、その時々自分のライフスタイルや学習目的に合った日本語学習の機会を選択できるよう多様な日本語学習の場を提供する。外国人住民だけに日本語学習の苦勞を強いるのではなく、多様な日本語が通じる社会を目指すという意味で、地域日本語教育の存在を知らない地域住民への周知も行っていく。 令和5年度より、市内の地域日本語教育の質の維持向上に向けたプログラムの調査を加える。プログラムは、これまで本事業で取り組んできた学習者の自律的な学習を支えるための自己主導型学習を基本理論に、『日本語教育の参照枠』および『生活 Can do』を活用したプログラムを想定する。在住外国人などがその時々自分の日本語学習のニーズに合わせて学習できるよう、一般的なライフサイクルを基本に大テーマを設定し、下位に設定するテーマを学習者が選択することで、個々の学習者のライフコースに合わせた学習を可能にするようなものを想定している。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況：図示も可】 神戸市に転入してきた外国人および潜在的日本語学習者を包摂するためのネットワークは、図1のように整った。が、当該のネットワークにつながっていない潜在的日本語学習者たちがまだまだ存在すると推測	

できるため、そのような人たちにも日本語学習の情報が届くように、今後さらにネットワークの要素を増やしていく。

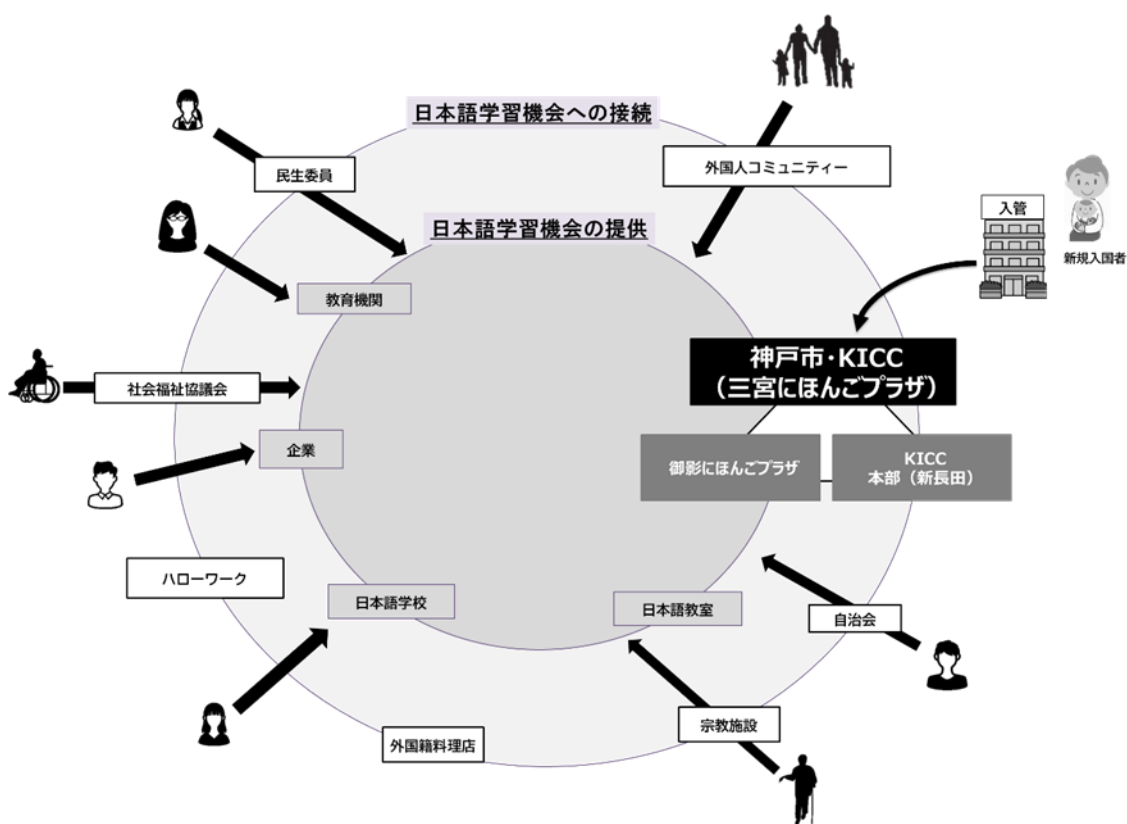


図1 日本語学習希望者を包摂するためのネットワーク

日本語学習における体制については、有資格の日本語講師による初級クラスを3拠点及びオンラインで実施する体制が整い、初級クラス終了者に対しては24カ所の地域日本語教室に移行し日本語学習の継続を促している。また、本事業の拠り所としている自己主導型学習を支える体制については、作成中である『神戸版学習評価ツール(仮称)』とグループアドバイジングの試行のためのクラスを開講し、今後の本格的な運用をするための検証を行った。さらに、地域日本語教室のボランティアに対しても、自己主導型学習についての理解を促すために自己主導型学習についての養成講座を実施した。企業との連携については、企業が参加するイベントや企業の理事会などに参加し、日本語教育の周知や企業内日本語教室の開催の促進に努めている。

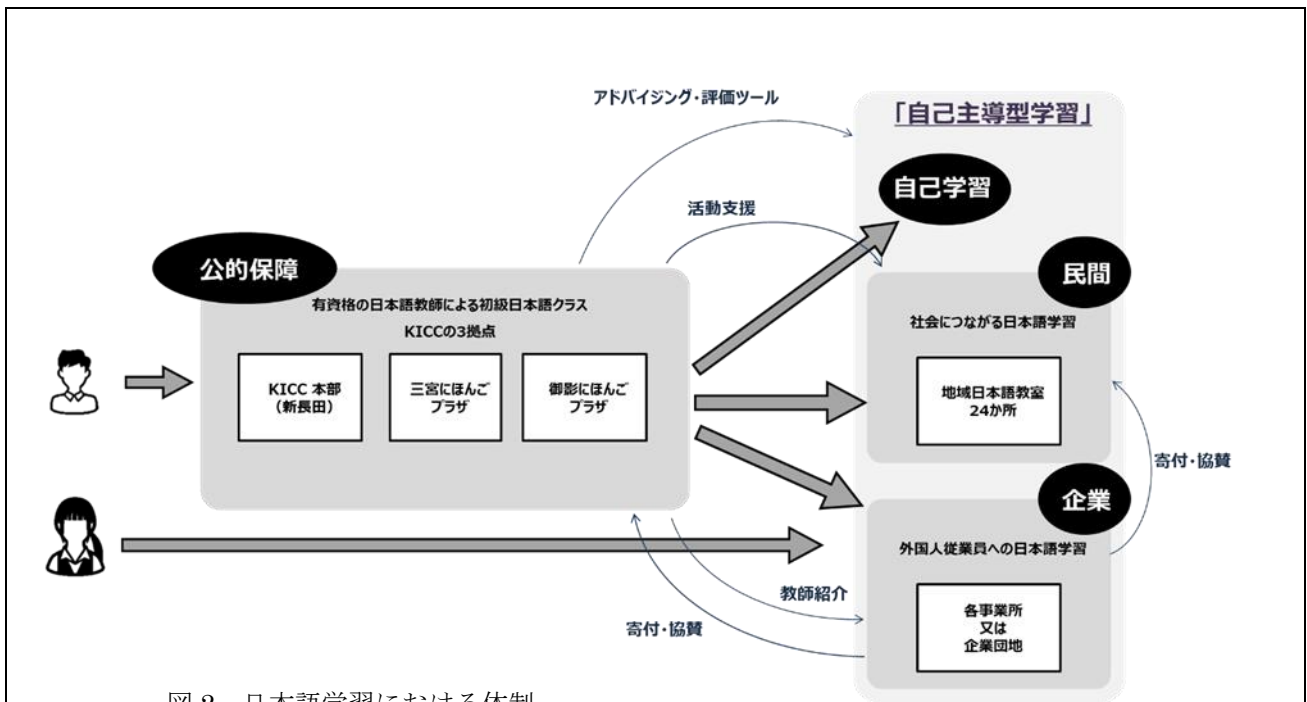


図2 日本語学習における体制

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

（『生活 Can do』を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供を目的とした取組を含め記載）

神戸市における地域日本語教育の質の維持向上に向けて、以下の体制の構築に取り組む。

まず、引き続き潜在的日本語学習者を掘り起こすためのネットワークを強化していく。新たな方法として、初級クラスの学習者からの情報を頼りに、わずかでも外国人との接点がある要素を開拓していく。

日本語学習については、『日本語教育の参照枠』および『生活 Can do』を活用したプログラムの調査を開始する。上のような日本語学習を支えるためには、人的リソースの育成も必須である。そのために、KICC登録講師の質の向上のための勉強会や、地域日本語教育に自己主導型学習を広める取組（養成講座、研修会、地域型メルマガ）も実施する。

また、企業への日本語教育に関する啓発と企業内日本語教室の開講のために、企業が集まるイベントへの参加や企業訪問を行う。

さらに、地域日本語教育の目的の一つである「共生社会構築」のための取組として、前年度開催したシンポジウムの第2弾の開催、フォーラムや研修会の開催をとおしてのやさしい日本語の周知や、外国人住民の存在を知らせるために「学習者物語／ボランティア物語」の継続的な発行を行う。

(2) 令和5年度事業の概要

①事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	

1年目は、総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーターを配置し、まずは上述の潜在的日本語学習者を掘り起こす目的で、これまでは地域日本語教育に関わっていなかった団体や機関などを新たな要素に加えたネットワークの構築に取り組んだ。

次に、学習者のレベルに応じた日本語学習の機会を提供するために、行政とボランティアによる日本語教育のそれぞれの特質を活かした支援を実施するため、行政の取り組みとして有資格の日本語講師による初級日本語クラスの実施、ボランティアのためのアドバイジングを実施した。

また、これまでは関係性が薄かった市内の日本語教室への訪問を行うことで、教室が抱える問題や行政への要望を知ることができた。1年目は11の日本語教室を訪問した。同年度の1月には、まだ訪問をしていない教室も含め13教室の20名が参加する「神戸市内日本語教室連絡会議」の実施に至り、今後の市内の地域日本語教育の底上げにつながった。

今後の課題としては、潜在的日本語学習者を掘り起こすためのネットワークの要素間の連携の強化、有資格の日本語講師の確保、ボランティア育成のための取り組みが残った。また、年度末に夜間中学校から生徒の日本語指導に関する相談があり、次年度の取り組みとして「夜間中学教員のための日本語教育研修」と「夜間中学の生徒のための有資格の日本語講師による夏期日本語教室」を行うこととなった。

そこで2年目は、新型コロナの感染拡大により大幅な変更を余儀なくされたものの上記の課題に取り組んだ。まずは、特に外国人就労者を中心とした潜在的日本語学習者を掘り起こすネットワーク強化のため、市内外国人住民関係機関を集めた「市内日本語学習推進に関する連絡協議会」を開催するとともに、外国人雇用企業を訪問してヒアリング調査を実施した。また、有資格の初級日本語クラスは新型コロナ流行の度合いに合わせてオンラインのみの実施や、対面と両方での実施とし、6月開始クラスから学習者の募集数を大幅に増加するためKICC登録講師の数を増やした。教師たちの授業報告や授業見学をした総括コーディネーターの記録から、これまで留学生への日本語教育しか経験してこなかった教師たちが行う学校型の授業方法では、地域型の学習者への対応が困難であることがみえてきた。今後の課題として、地域型の学習者に対する質の高い授業を行える教師の確保と、現在のKICC登録講師の質の向上のためのサポートが課題として浮上してきた。さらに、ボランティアの育成については、コロナ禍の影響により、オンライン支援のため養成講座をZoomミーティングを活用して実施したほか、夜間中学への2つの取り組み（教員研修、日本語教室）を新型コロナの感染の合間を縫って対面で実施することができた。

さらに3年目は、様々な日本語学習者に対応する利便性・柔軟性の高い日本語学習環境・プログラムを提供するため、KICCの拠点再編に伴い、日本語学習支援を3拠点に拡充するとともに、読み書きクラス等のプログラムの充実に取り組んだ。また、自律的な学習能力の向上を継続的に支援するために必要となる『神戸版学習評価ツール（仮称）』の作成に着手したほか、本事業で構築を進める地域日本語教育体制の今後の方向性を示し、持続していくため、市内の地域日本語教育に関わる人が共有し、その拠り所とすべき、神戸市における地域日本語教育に関する基本方針の作成に着手した。

4年目は、過去3年間で構築した事業内容を実施することで、最終年度に行うべき取り組みを検討する一年になった。まず、前年度3拠点に拡充した初級クラスへの学習者の応募状況や、地域日本語教室との連携状況から、今後、行政として継続すべきクラス編成が少しずつ明らかになってきた。また、自律学習への取り組みも進み、今年度は1クラスでアドバイジングセッションを試行したことにより、作成中の『神戸版学習評価ツール（仮称）』の修正、また日本語学習のどの時点で活用すれば効果的か、学習アドバイザーなど人的リソースの確保をどうすればよいかなどを検討する機会を得ることができた。さらに、ボランティアやKICC登録講師を対象に、自律学習を促す方法である自己主導型学習をテーマにしたブラッシュアップ講座の開催や、KICC登録講師のための勉強会も月1回の頻度で行い、定期的な勉強会となっている。

また、日本人への地域日本語教育の周知のための取組として、やさしい日本語フォーラムや研修、また異

なる文化を超えた共生社会の構築について考えるシンポジウムも開催した。

### ③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

本事業の目的である潜在的日本語学習者を掘り起こすためのネットワーク（p 2、図1）を築けたことは大きな成果であった。そのネットワークは固定されたものではない。初級クラス終了時のアンケート結果から、口コミにより学習者数が増えていることがわかった。このことから、ネットワーク（p 2、図1）の要素としての初級クラス終了者の存在が明らかになった。今後も、さらなる強化をしていく。

初級クラスの学習者数は年々増加しており、神戸市における公的な日本語学習機会として周知されてきたようである。令和4年度の中盤から、コロナ禍が終息に向かう気配とともに、対面クラスを希望する学習者が増えてきた。しかし、物理的な理由から断らざるを得ない状況が続いている。今後のクラス開催をどのようにするかが課題である。

自己主導型学習の取組も少しずつ進んできた。令和4年度は自己主導型学習に特化したボランティア養成講座の開催や、初級クラスでの学習アドバイジングを試みた。それにより、ボランティアやKICC登録講師の中に、自己主導型学習や学習者オートノミーに興味を寄せる人が増えてきており、学習者オートノミーを支える仕組みが少しずつ醸成されてきている。しかし、日本語教育に根付いている教師主導のパラダイムを換えることは容易ではなく、今後も、ボランティア養成講座やKICC登録講師の勉強会を継続していく必要がある。

企業との連携の強化として、企業訪問や、企業が集まる場での広報を行ってきたが、企業内日本語教室の増加にはつながっていない。今後も連携の効果を努めるが、どのようにすれば企業に日本語教育の責務を果たしてもらえるのかを検討する必要がある。

### ④令和5年度の目標

（『生活 Can do』を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供を目的とした取組の目標を含め記載）

事業全体の具体的な取り組みとしては、「日本語が十分でないために地域社会への参加をためらっている外国人やその家族などの言語的マイノリティが自分の声を持てるようにする」という本事業の目的達成のために、5ヵ年計画の最終年として事業全体の総括を行う。報告書には、基本方針、潜在的日本語学習者の掘り起こしのため取組、学習者が生涯をとおして学習するためのサポート体制、日本人側への働きかけ（やさしい日本語、共生社会構築）などについて、詳細に検証し記述する。報告書は、外部に公表し、神戸市の取組について周知する機会とする。

これまで構築してきた体制を継続しながら新たな取り組みとしては、神戸市の地域日本語教育の質の維持向上のために、『日本語教育の参照枠』と『生活 Can do』を活用したプログラムについて調査する。調査は、A1-1～B1-3 までを対象とする。

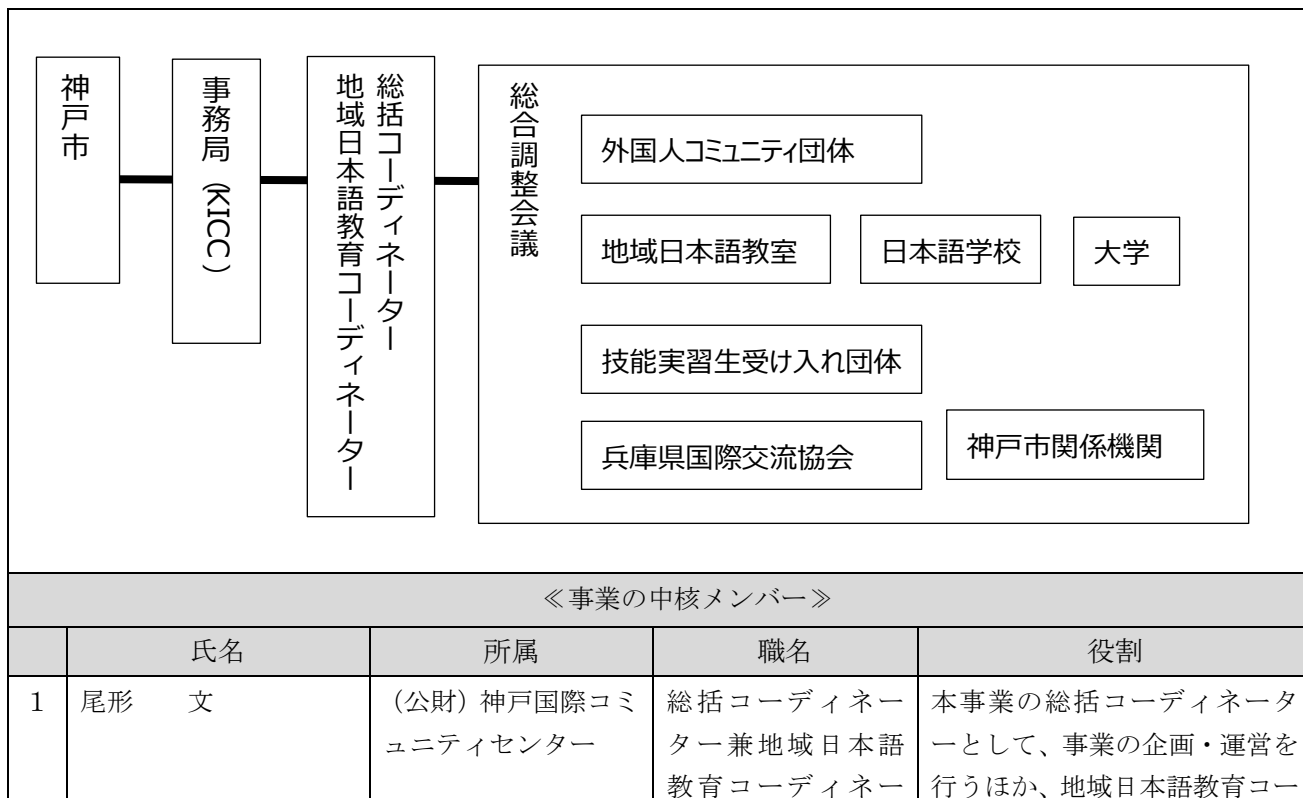
### ⑤令和5年度的主要な取組内容

- 事業全体
  - ・総合調整会議の開催
  - ・5ヵ年の総括（報告書作成）
- 自己主導型学習を支えるシステムの構築
  - ・学習者に対して：学習アドバイジング（個別／グループ）
  - ・ボランティアに対して：アドバイジング

- 日本語教育人材の育成
  - ・ボランティア養成講座（日本語サポーターフォローアップ講座）
  - ・KICC 登録日本語講師対象のブラッシュアップ研修
- 地域日本語教育に関する取り組み
  - ・既存の初級クラスの継続
  - ・日本語を話す機会を提供し、参加者同士の交流を深める取組（「コミュコミュ広場」「にほんごでおしゃべり」）
- 他の機関との連携による取組
  - ・企業への日本語教師紹介
  - ・夜間中学校・定時制高校との連携
- 共生社会の構築のための取組
  - ・やさしい日本語の普及（やさしい日本語研修会など）
- 地域日本語教育周知の取組
  - ・行政機関や外国人支援団体等への訪問時に地域日本語教室について情報を周知するとともに初級日本語クラスを案内
  - ・外国人向け合同企業説明会や企業訪問時に日本語教育の周知と日本語教師紹介
  - ・企業への日本語教師紹介

### 3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）



	(R5.10.1～) 田中 恵子		ター 総括コーディネーター	ディネーターとして、初級クラスのプログラム作成や KICC 登録講師の育成など事業全般を担当する。
2	(R5.11.1～) 柏原 さや	(公財) 神戸国際コミュニティセンター	地域日本語教育コーディネーター	総括コーディネーターを補佐する。
3	喜多村 直子	(公財) 神戸国際コミュニティセンター	事業担当課長	
4	近藤 真理 (R5.8.1～) 内川 沙耶果	(公財) 神戸国際コミュニティセンター		学習者や養成講座の受講者の受入れや、KICC 登録講師への対応など、本事業に関する事務全般を担当する。

## (2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市内の地域日本語教育の体制を整えるために、市内の大学、日本語学校、日本語教室とのネットワークの構築を図った。具体的には、地域の 24 か所の日本語教室への訪問を継続するとともに、日本語教室連絡会議を開催し、人材やノウハウの交換や共有を行った。また、潜在的日本語学習者を掘り起こすために、行政機関や外国人支援組織・団体、児童館、夜間中学、定時制高校、企業等との連携を構築するとともに、市内外国人就労者の関係機関との連携の強化に努めた。</li> <li>兵庫県内の 11 の日本語教育関係機関（行政、教育委員会、大学、日本語学校、NPO、任意団体等）で構成される「ひょうご日本語ネット実務者会議」に出席し、日本語教育に関する情報交換を図り、体制づくりに活かした。</li> <li>兵庫県国際交流協会と初級日本語クラスのありかたについて意見交換を行い、今後の事業展開の参考とした。</li> </ul>
---

## 4 令和5年度の実施内容

### (1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	岡田 浩一	神戸市海外ビジネスセンター	所長	市内の企業への外国人就労に関すること

2	鳥本 敏明	日本ベトナム友好協会兵庫県連	常任理事	ベトナム人の就労状況の把握
3	安井 裕司	日本経済大学	教授	市内の大学の留学生の状況把握
4	内田 さつき	コミュニカ学院	校長	市内の日本語学校、及び日本語教育に関する情報
5	高西 宏和	中央区地域協働課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
6	田中 謙次	長田区地域協働課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
7	石堂 徳子	教育委員会学校教育課	こども日本語サポートひろば担当	外国人児童及びその保護者の状況
8	松野 孝行	東灘日本語教室	共同代表	日本語教室の状況
9	村上 由紀	兵庫県国際交流協会多文化共生課	日本語教育指導員／総括コーディネーター	地域日本語教育に関する情報
10	篠原 典子	兵庫県国際交流協会多文化共生課	日本語教育指導員／総括コーディネーター	地域日本語教育に関する情報
11	奥 優伽子	NPO 法人神戸定住外国人支援センター	日本語コーディネーター	日本語教室の状況
12	野上 恵美	ベトナム夢 KOBE	代表	市内ベトナム人の状況
13	林 文勇	(公財) 国際ロータリー第 2680 地区米山奨学生学友会(兵庫)	副会長	外国人の就労や企業の支援の状況
14	荒井 秀行	阪神金属協同組合	事務局長	市内の企業への外国人就労に関すること
15	永野 喜久	東灘区地域協働課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
16	永峰 正規	神戸市国際課	課長	行政的見地からの意見
17	野々口 ちとせ	甲南大学	准教授	日本語教育の専門家としての知見
事務局代表 1	甲斐 隆弘	(公財) 神戸国際コミュニティセンター		総務部長兼事業部長
事務局代表 2	喜多村 直子	(公財) 神戸国際コミュニティセンター		事業担当課長
総括コーディネーター	尾形 文  (R5. 10. 1～ )	(公財) 神戸国際コミュニティセンター		



	田中 恵子		
地域日本語教育コーディネーター	尾形 文  (R5. 11.1～) 柏原 さや	(公財) 神戸国際コミュニティセンター	
②実施結果			
実施回数	年 1 回		
実施スケジュール	補助金の交付決定後、上記中核メンバーによる会合を開き、事務局からの報告を受けて方向を取りまとめた。 1月 第1回会合 今年度の活動経過の中間報告、方向性の修正等協議		
主な検討項目	<p>今後、どのように本事業を持続させるのかを中心に委員で検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在的日本語学習者の掘り起こしに関する方法と長期に渡り日本語学習者をサポートするシステムについて</li> <li>・地域日本語教室の現状と問題点</li> <li>・地域日本語教室の支援のあり方と行政の役割</li> <li>・各機関との連携の方向性</li> <li>・神戸市の地域日本語教育体制全体についての評価</li> </ul>		
(取組②-1) 総括コーディネーターの配置			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度から文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者の中から採用した者が総括コーディネーターを務めていたが、令和5年10月より新たに採用した者が総括コーディネーターとしての業務にあたった。</li> <li>・主な業務は、初級クラスの企画（コースデザイン、講師の割り当て、講師の育成）、日本語講師へのアドバイジング、登録日本語講師のための研修会等の実施である。</li> </ul>			
(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組			
<p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【( )】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年8月まで先の総括コーディネーターが地域日本語教育コーディネーターを兼務していたが、令和5年11月より地域日本語コーディネーターを新たに配置し、総括コーディネーターとの2人体制となった。</li> <li>・地域日本語教育コーディネーターの役割として総括コーディネーターを補佐し、日本語教育人材の育成、日本語教育普及の取組、データの管理・集計、研修会などの企画・準備などを行った。</li> </ul>			
(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置			
なし			
【重点項目】			

(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成

誰にでも目を通してもらえるよう、簡潔な基本方針を目指して作成のための準備中である。

(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

### 【1. 地域日本語教室の訪問】

地域日本語教室との連携を強化するために、NPO 法人神戸定住外国人支援センターがふたば学舎で実施している「ウクライナ避難民向け日本語教室」への訪問を行った。女性ばかり 10 人程度の学習者が和気あいあいとした雰囲気の中で日本語を学んでおり、日本語の習得はまだまだ十分ではないが困難な状況の中で少しでも精神的に安らげる場所が提供できていることを確認した。

### 【2. 地域日本語教室連絡会議の実施】

#### 【目的】

教室間のつながりを深めることで、学習者やボランティアがどの教室へも行き来しやすい環境を作る。教室間で支援方法などの情報を交換することで、地域日本語教育の質の向上につなげる。

神戸市内の地域日本語教育を進化させるために、教室が抱える課題を収集、神戸市における地域日本語教育の方針を共有する。

【実施時期】 2024 年 3 月 26 日

【参加者】 対面 13 人 オンライン 5 人

【内容】 KICC における令和 5 年度の地域日本語教育体制整備事業についての報告後、令和 6 年度の事業の主な内容の説明を行った。令和 6 年度からの地域日本語教室運営助成金について説明を行い、内容についての質疑応答を行った。続いて各教室から現状と問題点の報告を行い、問題点に対する解決策を話し合った。この中で課題として、日本語支援ボランティアの減少や急な欠席者への対応等が挙げられた。

### 【3. 市内日本語教室への助成】

初級学習者以外についてはボランティアによる地域の日本語教室につないでいる。地域の日本語教室では、社会参加を視野に入れた日本の文化・生活習慣を実際に近隣住民の日本人から学ぶ貴重な機会ともなっている。一方で、これら日本語教室の経済基盤が脆弱である実態を踏まえ、市内の日本語教室を運営する 24 団体のうち、地域日本語教室コーディネーターの配置や、夜間の教室開催などに取り組む団体に対して助成金を交付し、その強化を図った。助成金交付の基準は以下のとおりである。

『地域日本語教室運営助成金交付要綱』より（令和 4 年 4 月 1 日改訂）

以下の 2 つの事業について助成金を交付する。

#### 1. コーディネーター事業

上限を 45 万円とし、日本語教室コーディネーターの謝金・交通費を対象に補助する。

#### 2. 夜間教室事業

上限を 35 万円とし、18 時以降に開催する教室に対し、ボランティアの謝金・交通費・会議室使用料を対象に補助する。

この基準に基づき、以下の 4 団体に助成金を交付した。

東灘日本語教室、北神日本語教室（NPO 法人場とつながりの研究センター）、日本語教室だんらん（まなびと）、KFC 日本語プロジェクト（神戸定住外国人支援センター）

#### 【4. 企業への日本語教師紹介事業】

##### 1. 日本語教師紹介の取り組み

外国人就労者への日本語学習を希望する企業に対して、KICC 登録講師を紹介した。授業を開始するにあたり、担当者が企業へ出向き、授業のカリキュラムデザインのための情報を収集した。これをもとに企業との話し合いを行い、授業の内容や期間などを決定した。講師の謝金・交通費・教材費などは企業が負担している。

【目標】業務が支障なく遂行できるための日本語を習得すると同時に日本で生活していく上でのコミュニケーション能力を身につける。

【実施回数】 令和5年10月～ 令和6年3月 18回（1回3時間 月3回）

【受け入れ企業】 1社（社団法人）福祉心代会

【受講者】 6人 福祉施設の従業員、およびその家族（全員アフガニスタン人）

【実施場所】 企業内会議室等（尼崎市）

【内容】仕事で使う日本語に加え、休憩時間などの日本人とのおしゃべり、生活上必要な日本語を想定して授業内容を組み立てた。教材『いろいろ 生活の日本語 入門』『漢字マスターN5』

【講師】KICC 日本語登録講師3人（うち日本語講師3人）

『日本語教育の参照枠』や標準的なカリキュラム案等の活用の有無：テーマの選択や活動の参考に標準的なカリキュラム案等を活用

##### 2. 企業への日本語教師紹介事業の周知

###### ①外国人向け合同企業説明会

【実施時期】：令和5年6月21日（水）10：30～16：00

【場所】神戸サンボーホール

【主催】神戸市 兵庫県 神戸国際ビジネススクエア

【共催】（公社）神戸国際コミュニティセンター（公財）兵庫県国際交流協会 他

【内容】参加企業（61社）に日本語教師紹介事業を周知した

###### ②起業・創業支援セミナー

【実施時期】2024年1月28日（日）11:00～13:00

【場所】KICC 新長田 1階(Umi&Yama)

【主催】神戸国際コミュニティセンター

【後援】神戸市観光局 神戸市産業振興財団

【登壇者】留学生の起業家8名

【参加者】65名（留学生、その他外国人）うち留学生の起業家8名

【内容】企業関係者（20名）に日本語教師紹介事業を周知した。

###### ③留学生と企業の交流会

【実施時期】2024年3月21日（木）13:30～16:30

【場所】神戸センタープラザ9階コ・クリエーションセンター  
【主催】神戸市（公社）神戸国際コミュニティセンター（公社）兵庫工業会  
【参加者】留学生22名 企業13企業  
【内容】企業関係者に日本語教師紹介事業を周知した。

（取組⑤）市区町村への意識啓発のための取組

- ・各区の地域協働課など外国人住民と関りがある担当課を訪問し、外国人住民の情報を収集するとともに、外国人住民への日本語学習の重要性を伝え、KICCの初級日本語クラスや地域日本語教室の存在を周知した。
- ・児童館職員や地域の婦人会会員など外国人住民と関りがある方々に、外国人住民の実態を周知しコミュニケーションの方法を知ってもらうためにやさしい日本語研修を実施した。

（取組⑥）日本語教育人材に対する研修

【1. 日本語ボランティアのためのフォローアップ講座】

KICC日本語学習支援サポーターとして登録をしているボランティア向け講座。

【名称】日本語サポーターフォローアップ講座 「やさしい日本語」×「コミュニケーション」×「対話」の関係@地域日本語教室

【目的】「コミュニケーション」「やさしい日本語」「対話」といったキーワードを通して地域日本語教室における活動の在り方や活動の具体を、自らの活動を振り返りながら整理した。またワークショップを通して各自の活動の改善点の気づきに繋げることを目指した。

【実施時期】11月9日（木） 2月17日（土） 各3時間 各日 同一内容

【場所】KICC新長田 1階(Umi&Yama)

【講師】安田 乙世

【対象】KICC登録サポーター（ボランティア）

【参加者】11月9日（木）10人 2月17日（土）17人 合計27人

【参加費】500円

【内容】日ごろ分かったつもりでいる「コミュニケーション」とは何かを改めて考えるための講義があり気づいたことを話し合った。また、日本語を教えるうえで大切なことは何かを各自が考えていくうえで忘れてはならない基本的枠組みが示され、それについて意見交換を行った。

【2. 定時制高校教員対象日本語教育研修】

新たな取り組みとして、特別な教育課程の充実を図る市内の定時制高校と連携し、教員たちへの日本語教育研修を実施した。

【目的】特別の教育課程による日本語指導の充実を図る

【日時】4月20日（木）14:30～16:30

【場所】神戸市教育委員会事務局学校教育部会議室

【参加者数】5人

【内容】学習を支援するための教師の役割として重要なのは「学習者オートノミー」を育てることである。言語学習においては学習者が内省できることが必要だが、内省的な学習者になるためには適切なアドバイジングが不可欠であることを強調した。

### 【3. 登録日本語講師ブラッシュアップ研修 (いろいろ 生活の日本語)】

【目的】KICCの初級日本語クラスで使用している教材「いろいろ 生活の日本語」はどういう考え方の元に作成され、どのように扱っていくのがいいのかを、作成者の一人である国際交流基金日本語国際センターの講師から講義を受けた。KICC 日本語登録講師が日頃から抱えている疑問を解消すると同時に今後の授業実践に役立てる研修となった。

【実施時期】2月15日(木) 10:00~12:00 2月16日(金) 14:00~16:00 各日 同一内容

【講師】国際交流基金日本語国際センター専任講師 磯村 一弘

【対象】KICC 登録日本語講師・KICC 職員

【参加者】2月15日(木) 16名 2月16日(金) 14名 計30名

【開催方法】Zoomによるオンライン

【内容】教材『いろいろ 生活の日本語』の作成目的、既成の教材にない特色、使用対象、使用した授業の基本的な流れ、使用する際に留意すべき点等についての講義。従来の文型重視の教材と違い、行動中心アプローチにもとづいて作成され、目標にもとづいた行動が遂行できるような力をつけることを目指していること、オーセンティシティを重視し、すべてを理解する必要はないこと、わかるものを使ってコミュニケーションをとればよいことが強調された。

授業の具体的な展開例が紹介され、教科書をそのまま使用すればいいように作られているものであるため改造を試みる必要はないと戒められた。

又、あらかじめ提出した登録講師の教材を扱ううえでの疑問点に対する回答、およびアドバイス、当日講師から出た質問に対する回答もあった。

### 【4. 総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターによる初級日本語クラス授業見学及び登録講師指導】

令和5年10月以降、新たな総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターが全ての登録講師の授業を見学し、その内容について意見交換を行うとともに必要に応じ指導を実施した。

登録講師の授業を見学することで、現在の初級日本語クラスのコースデザイン、カリキュラムデザインの問題点が明確になり、次年度からの初級日本語クラスをより効果的に展開していくための方向性が得られた。受講生が使用教材の内容を確実に習得するためには、現行の時間数では明らかに不足しているため、各課に費やす時間数を増やすこと、教材の目指すところとは異なる授業展開を改めることが求められる。

### (取組⑦) 地域日本語教育の実施

実施するものに○  都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育  
 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

日本語教室の場合は、「新設」か「既設」のいずれかを記載してください。

実施箇所	3か所（東部・中部・西部）と オンライン「既設」	受講者数 (実人数)	552人
活動1 既設	<p>【名称】会話のための初級日本語クラス（子ども同伴可）</p> <p>【目標】 自分の学習目的を知り、長期・中期・短期の目標を設定し、自分の周りにおける学習リソースを活用しながら学習を進め、学習の振り返りができるようになる。 次のクールには次のレベルに上がる。</p> <p>【実施回数】1,403回（1回2時間） 東部 23回×4クラス×1クール=92回 中央 23回×5クラス×4クール=460回 西部 23回×4クラス×3クール=276回 オンライン 23回×（3クラス×4クール+1クラス×3クール+2クラス×5クール）=575回</p> <p>【受講者数】527人（東部14人、中部242人、西部88人、オンライン183人）</p> <p>【実施場所】西部：神戸市長田区（KICC） 中央：中央区（三宮にほんごプラザ） 東部：東灘区（御影にほんごプラザ） オンライン：Zoomミーティングを活用したオンライン</p> <p>【受講者募集方法】 KICCのホームページ・SNS、チラシ配布（地域日本語教室、兵庫県国際交流協会、9区の区役所、神戸市関連機関、児童館、教育機関、ハローワーク、企業など）</p> <p>【内容】 開催レベル（対面、オンラインとも） 初級1：A1レベル『いろどり入門 A1』 初級2：A2前半レベル『いろどり初級1 A2』 初級3：A2後半レベル『いろどり初級2 A2』</p> <p>授業の進め方 ・23回の授業をチームティーチングで行った。 ・授業後には報告書をKICC内のシステムにアップし、学習者の様子や授業の進捗を講師間、コーディネーターで共有した。</p> <p>学習の評価方法 ・日本語の習得レベルについては、『いろどり』のCan-doリストを活用し、学習者による3段階の自己評価を行った。</p> <p>【開始した月】令和5年5月</p> <p>【講師】KICC登録講師32人（うち、日本語講師32人）</p> <p>『日本語教育の参照枠』や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり。</p>		

	<p>主教材として『いろいろ 生活の日本語』を使ったが、授業では各クラスの学習者に適した、教科書にはない本物の日本語を取り入れる際の会話練習などに標準的なカリキュラム案を活用した。</p>
活動2 既設	<p><b>【名称】</b> 読み書きクラス（子ども同伴可）</p> <p><b>【目標】</b> 日常生活でどんなものを読み書くのかを自覚し、その中から自分に必要なジャンルの内容の文書を選択し、それが読み書きできるようになる。</p> <p><b>【実施回数】</b> 60回（1回2時間） 東部 12回×1クラス×3クール=36回 西部 12回×1クラス×2クール=24回</p> <p><b>【受講者数】</b> 12人（東部8人、西部4人）</p> <p><b>【実施場所】</b> 西部：神戸市長田区（KICC）、東部：神戸市東灘区（御影にほんごプラザ）</p> <p><b>【受講者募集方法】</b> KICCのホームページ・SNS、チラシ配布（地域日本語教室、兵庫県国際交流協会、9区の区役所、神戸市関連機関、児童館、教育機関、ハローワーク、企業など）</p> <p><b>【内容】</b> 学習者たちに生活で読んだり書いたりする文書について考えさせ、その中から自分が目標とする文書を選択した。何を目標にするかを学習者自身が決定するので、個々の学習者により教材とするものが異なるのだが、ピアラーニングなどを取り入れ学習者間の学びを促進させることが教師の役割であった。</p> <p><b>【開始した月】</b> 令和5年5月</p> <p><b>【講師】</b> KICC登録日本語講師 5人（うち、日本語講師5人） 日本語教育の参照枠や標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動3	<p><b>【名称】</b> 夜間中学夏期日本語教室</p> <p><b>【目標】</b> クラスメートとテーマに沿って意見交換をする。 教科学習に参加するための基礎を固める。</p> <p><b>【実施回数】</b> 8回（1回 1時間45分×8回=14時間）</p> <p><b>【受講者数】</b> 13人（Aクラス2人 Bクラス4人 Cクラス2人 Dクラス5人）</p> <p><b>【実施場所】</b> 神戸市立丸山中学校西野分校</p> <p><b>【内容】</b> A、B、Cクラス 日常生活で使う日本語を身につけるため、初級の教科書を使用し、会話を中心に学習した。 Dクラス 中級の教科書を使用し、読み書きに重点を置いた授業を行った。</p> <p><b>【開催期間】</b> 7月24日(月)～7月28日(金) 7月31日(月)～8月2日(水)</p> <p><b>【講師】</b> KICC登録日本語講師6人（うち、日本語講師6人） 『日本語教育の参照枠』や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり テーマの選択や活動の参考に標準的なカリキュラム案等を活用した。</p>

(取組⑧～⑮) その他の取組

**(取組⑧) 地域における日本語教育の在り方について検討**

- (1) 総合調整会議において神戸市の実情に応じた地域日本語教育の体制について協議した。
- (2) 日本語教室連絡会議において市内の地域日本語教育に関する情報交換、課題、今後のあり方について考える場とした。

**(取組⑨) 地域日本語教育の効果を高めるための取り組み**

**【1. 教材の配布】**

新しい総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター就任後、初級日本語クラスで使用しているオンライン教材「いろどり」の学習効果を高めるために、教材を印刷し配布することで、自主学習に活かせる体制を構築した。

【内容】いろどり「入門」「初級1」「初級2」

**【2. コミュニケーションひろば】(子ども同伴可)**

**【目標】**

初級クラスで学んだ日本語や自分の周りにおけるコミュニケーションツールを活用して、日本人やクラスメートとやり取りすることで、本物の日本語を使う場とする。

【実施時期】7月12日(水) 7月26日(水) 各13時～15時

【ボランティア数】各5人

【参加者数】7月12日(水)14人 7月26日(水)13人

【実施場所】神戸市中央区(三宮にほんごプラザ)

【受講者募集方法】初級日本語クラスでチラシを配布

**【内容】**

初級日本語クラスの各レベルを終えた学習者が次のレベルに移行するまでの短期間を利用し、学習者にとっての実践の場とした。

① 7月12日(水)

アイスブレイクとして簡単な体操とゲームを行った後、七夕祭りについて紹介した。「たなばた物語」のVTRを見て、物語のあらすじを発表してもらった。休憩後、短冊に自分の願い事を書き、その理由も合わせて説明してもらった。当日出てきた言葉を復習してまとめとした。

② 7月26日(水)

自己紹介の後、アイスブレイクとして身近に起こった楽しいことやうれしいこと、新しい発見などを全員が発表した。30程度の動詞のカードを取るゲームを行い、使われた動詞を「～ない」の形に変換する練習をした。最後にその日学んだことのふりかえりを行った。

**【3. 日本語でおしゃべり】**

**【目標】**



1. 授業以外で日本語を話す機会を提供し、参加者同士の交流を深める。
2. 参加者、留学生サポーター、日本人サポーターとの交流を深める。

【実施時期】1月26日(金) 2月29日(木) 各14時～15時30分

【実施日時、参加者数、実施場所】

① 日時：1月26日(金)

参加者：10人(日本語学習者9名+付き添い1名)

ボランティアサポーター5名 留学生サポーター2名 KICC職員4名 合計21名

場所：KICC新長田 1階(Umi&Yama)

② 日時：2月29日(木)

参加者：日本語学習者16名

ボランティアサポーター4名 留学生サポーター2名 KICC職員4名 合計26名

場所：KICC三宮にほんごプラザ

【受講者募集方法】

- ・初級日本語クラスでチラシを配布。
- ・ホームページ、KICC等の掲示。

【内容】

①日時：1月26日(金) 文化体験：福笑い、日本のお正月、国旗カルタ

グループトークのテーマ「国の遊び」、「日本語の学習法」

参加者の声：(一部抜粋)

- ・遊びをしながら日本語で話すのが好きです。
- ・いろいろな文化に触れることができる。
- ・福笑いや、かるた、どちらもとてもおもしろかったです。

②日時：2月29日(木) 文化体験：桃の節句、色の言葉、折り紙で作るひな人形

グループトークのテーマ「日本の生活の困りごと」、「日本語学習法」

参加者の声(一部抜粋)

- ・日本語でおしゃべりは参加初めてです。日本の文化を知ることかできました。皆さんと一緒に楽しかったです。
- ・I recently moved to Japan and my Japanese is only at the basic conversational level. As such, it was very good to meet people and practice Japanese with nice and welcoming people. The teacher and supporters were all very nice and made my first experience with the event much less scary.
- ・It was fun! I learned something new.

#### 【4. 初級日本語クラスの周知】

初級日本語クラスでの学習機会が提供されていることを広く周知し、日本語学習を必要とする生活者に情報が届くことを目的とする。

【方法】ポスターの作成・掲示、チラシの配布

【掲示場所】初級日本語実施施設、多国籍料理店、企業、行政機関、日本語教育機関 など

**(取組⑩) 地域住民を対象とした啓発事業**

**【1. 日本語学習支援事業に関する周知】**

- ・HPへの掲載
- ・神戸市内のハローワーク等の公共施設や近隣の商業施設（レストラン、スーパー等）へのポスター、チラシの配布。

**【2. やさしい日本語研修】**

1. 児童館の職員対象の研修会

【目的】日々多くの市民、特に幼児や児童、その保護者と接する児童館の職員に「やさしい日本語」が  
どういふものかを知り、日ごろ目にする文章をやさしい日本語に翻訳することができるようにす  
る。

【開催時期】 7月5日（水）14日（金） 9：30～12：30

【会場】KICC 三宮にほんごプラザ

【対象】神戸市内の児童館職員

【参加者】6人（各日3人）

【講師】水野マリ子

【内容】やさしい日本語の生まれた経緯とその進展のおおよそを説明後、やさしい日本語の例をいくつか  
紹介し、実際にわかりやすい文章にしてみることを試みた。文書を日本人にわかりやすくするには  
どうすればいいかということから、外国人にもわかりやすい文章にするためにはどのような工夫が  
必要かについて段階を追って学習した。

2. 神戸市婦人団体協議会会員向けの「やさしい日本語研修会」

【目的】市民向けに「やさしい日本語」について学ぶ機会を提供し、「やさしい日本語」への理解を促  
進する。これにより、日本語非母語話者の社会参画や生活利便性向上の一助になることを目指す

【開催時期】令和6年3月7日（木）13：45～14：45

【会場】神戸市立婦人会館 会議室

【参加者】神戸市婦人団体協議会 単位婦人会会長、神戸市婦人団体協議会 職員 102名

【講師】吉開 章

やさしい日本語ツーリズム研究会 代表

一般社団法人やさしい日本語普及連絡会 代表理事

【内容】

「やさしい日本語」について初めて知る方向けの基礎的な内容。

**【参加者の声】**（一部抜粋）

- ・外国の人たちには日本語は難しいので、大変なんだと思いました。
- ・やさしい日本語の講演を聞いて良かったと思います。
- ・知らず知らずのうちに外国人を避ける状態があった様に思います。
- ・たくさんの気付きがあり大変勉強になりました。

**取組① ICT を活用した教育・支援**

「会話のための初級日本語クラス」では、令和2年度から開催しているオンラインクラスを引き続き実施した。当クラスでは、日本語学習に関する Web サイトなども活用し、学習者が家で日本語学習に取り組むためのアドバイスも行った。

**取組②成果の普及**

- (1) HP や SNS で本事業の成果物や実践報告を掲載した。
- (2) 日本語ボランティアに対しては、各養成講座に初級クラスの取組や学習アドバイジングなどを取り入れることで、本事業の成果の普及を行った。

**2. 市区町村の日本語教育の取組への支援**

**（取組①）市区町村を支援して実施する日本語教育**

**（取組②）取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育**

**（支援の方法）**

日本語ができるウクライナ母語話者と日本語講師を配置し、ウクライナ避難民たちが母語を交えながら日本語を習得できる機会を提供する民間団体に、日本語教室の運営に必要な経費の一部を神戸国際コミュニティセンターが助成した。

**【市区町村の間接補助事業者】** 1 団体

**【間接補助制度・交付要綱等の名称】**

令和5年度 ウクライナ避難民向け日本語教室運営助成金交付要綱

**【同補助金交付の目的】**

日本語学習を支援することが目的だが、母語話者を配置することで、現在の自分の日本語レベルでは表現できない内容についても話題にすることができるため、日常の不安やストレスを軽減する時間になることを期待する。

**【実施者】** NPO 法人神戸定住外国人支援センター

（対象とする取組等）

NPO 法人神戸定住外国人支援センターが実施する「ウクライナ避難民向け日本語学習支援事業」：ウクライナ避難民を対象に、ウクライナ語を交えた日本語教育を行い、日本語のコミュニケーション能力・自己表現能力が身につけられるよう支援を行った。日本語以外にも、生活ガイダンス、文化交流、日本人との交流も実施した。

【実施回数】水・木曜日 通年開催（正月休み、お盆休みを除く）全 192 回

対面 12:30～15:00 オンライン 10:00～20:00 のうち 1.5～2 時間

【実施場所】ふたば国際プラザ 自宅等オンライン

【教材】「あおぞら」「公文絵カード」「レアリア」等

【受講者数】14 人

【受講者募集方法】

本取組は特定の人を対象とするため、生活支援を行っているウクライナ避難民や既にウクライナ避難民向け日本語学習支援事業で日本語学習を学習しているウクライナ避難民に案内を行った。また、口コミによる案内も行った。

【講師】3 人、母語話者 2 名

## 5 主要な取組の実施状況

令和 5 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・定時制高校教員対象日本語教育研修</li><li>・企業内日本語教室広報活動（年間）</li></ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・会話のための初級日本語クラス／読み書きクラス開始（年間）</li></ul>
6 月	
7 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュコミュ広場</li><li>・やさしい日本語研修（児童館職員対象）</li><li>・夜間中学と連携した日本語教室</li></ul>
8 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・夜間中学と連携した日本語教室</li></ul>
9 月	
1 0 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・KICC 登録講師 講師ミーティング</li></ul>
1 1 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティアのための日本語サポーターフォローアップ講座①</li><li>・KICC 登録講師の授業見学及び指導（～3 月）</li></ul>
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域日本語教室訪問</li></ul>
令和 6 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・総合調整会議</li><li>・日本語でおしゃべり（新長田）</li></ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・登録日本語講師ブラッシュアップ研修</li><li>・ボランティアのための日本語サポーターフォローアップ講座②</li><li>・日本語でおしゃべり（三宮）</li></ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・やさしい日本語研修（神戸市婦人会対象）</li><li>・KICC 登録講師 講師ミーティング</li><li>・地域日本語教室連絡会議</li></ul>

## 6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法
<p><b>【令和5年度の目標】（再掲）</b></p> <p>事業全体の具体的な取り組みとしては、「日本語が十分でないために地域社会への参加をためらっている外国人やその家族などの言語的マイノリティーが自分の声を持てるようにする」という本事業の目的達成のために、5ヵ年計画の最終年として事業全体の総括を行う。報告書には、基本方針、潜在的日本語学習者の掘り起こしのため取組、学習者が生涯をとおして学習するためのサポート体制、日本人側への働きかけ（やさしい日本語、共生社会構築）などについて、詳細に検証し記述する。報告書は、外部に公表し、神戸市の取組について周知する機会とする。</p> <p>これまで構築してきた体制を継続しながら新たな取り組みとしては、神戸市の地域日本語教育の質の維持向上のために、『日本語教育の参照枠』と『生活 Can do』を活用したプログラムについて調査する。調査は、A1-1～B1-3 までを対象とする。</p>
<p><b>【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】</b></p> <p><b>《定量評価の目標と検証方法》</b></p> <p>令和5年度以降の本事業の日本語教育とその効果を高める取組や日本語教育人材育成に関する取組、また、自己主導型学習を支える体制に係る取組などについてそれぞれ以下の項目を総合的に評価することで効果の確認を行った。いずれの項目も前年度の項目を超えることを目標に、それぞれの実施回数から算出した。</p> <p>(1) 取組全体</p> <p><b>〈5ヵ年の総括〉</b></p> <p><b>【指標1-1：定性評価目標】</b></p> <p>目標：1月末までに報告書を作成する。</p> <p>実績：総括コーディネーターの交代等があり、業務の遂行にやや遅滞が生じたため、報告書の作成は3月までずれこんだ。</p> <p><b>〈日本語教育〉</b></p> <p>① 有資格の日本語講師による日本語教育：会話のための初級クラス、読み書きクラス</p> <p>② ボランティアとの交流による日本語教育：コミュコミュ広場、日本語でおしゃべり</p> <p>③ 夜間中学夏期日本語教育</p> <p><b>【指標1-1：定量評価目標】</b></p> <p>・日本語教育の実施人数とその効果を高めるための取り組み合計数（上記、①～③の合計数）</p> <p>○目標値 864 人（前年 829 人）</p> <p>言語的マイノリティーのうちでも特に、物理的理由や心理的理由により日本語学習を断念した人や、ライフスタイルと学習機会が合わず学習の場に参加できない人、学習機会にたどり着くための情報がない人を、本事業では潜在的日本語学習者と呼び、それらの人々が社会や自分の家族に対して日本語で発言できるようになることを事業の目的の一つとしている。初級クラスの学習数が増加することで、これまで拾え</p>

なかった潜在的日本語学習者にある程度たどり着いていると想定できる。

○実績値 605人

実績値が目標値を下回った理由のひとつは、継続的に実施する予定であったコミュコミュ広場が7月に2回しか実施できなかったことである。また、初級日本語クラスの開始を4月に予定していたが、前年度のクラスが3月まで続いたことにより開始が5月となった。このため開講クラスが昨年度の85クラスから64クラスに減少したことも理由にあげられる。

今年度は単に参加者数という定量評価目標のみを立てたが、正しく事業の効果を評価するためには、日本語クラスへの満足度や学習を継続する学習者の数等について目標を立てていくことを考える必要がある。

#### 〈日本語教育人材の育成〉

- ① ボランティアブラッシュアップ研修会
- ② 定時制高校教員対象日本語教育研修
- ③ KICC登録日本語講師対象 ブラッシュアップ研修
- ④ KICC登録講師の授業見学及び指導

#### 【指標1-2：定量評価目標】

- ・日本語教育人材の合計数（上記①～④の合計数）

○目標値 435人（前年 380人）

○実績値 95人

実績値が目標値を大幅に下回ったのは、実施する予定であったボランティア養成講座や地域型メルマガの配信ができなかったことが大きい。これは本事業の中核を担う総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターが年度途中に急遽交代したため新体制の整備に時間を要したことにより計画していた事業の実施が難しい状況になったためである。しかし、当初の計画にはなかった「③KICC登録日本語講師対象 ブラッシュアップ研修」を実施することで初級日本語クラスの授業内容を振り返り、今後の改善に大いに役立てられることとなった。また、新しい総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターによる「④KICC登録講師の授業見学及び指導」も、KICCの日本語教育を支えている登録講師の成長に資するところとなった。

#### 〈地域日本語教育の効果を高める取組〉

- ① 学習者へのアドバイジング
- ② 教室立ち上げ支援

#### 【指標1-3：定量評価目標】

①学習者へのアドバイジング

○目標値 120回（前年 88回）

学習者が自律的に学習する能力とは、自分の学習目的を自覚し、自分で学習目標を設定し、自分の学習計画を立てて実行することである。それができるようになれば、その時々自分の学習計画に合った学習の機会を選択できるようになる。しかし、自律的な学習能力は育てないと育てないと言われているので、育成の1つとしてアドバイジングを行う。

○実績値 0回

実効性のある日本語授業を展開するために、現授業のあり方を再検討し、学習者の日本語習得に寄与する内容となる体制の改変を進める事を優先したため、アドバイジングまで実施できなかった。

### ③ 教室立ち上げ支援

○目標値 2 教室（前年 2 教室）

○実績値 0 教室

実効性のある日本語授業を展開するために、現授業のあり方を再検討し、学習者の日本語習得に寄与する内容となる体制の改変を進める事を優先したため、教室立ち上げまで取組めなかった。

（2）『生活 Can do』を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供又は日本語教育機関との連携による実施を目的とした取組について

#### 【指標 2-1：定性評価目標】

○目標値：前掲の「参照する資料等」の 6 冊の文献調査の完了（前年なし）

4 月～6 月までの 3 か月を 6 冊の文献調査に費やし、調査メンバーで知識を共有する。各文献は章ごとに担当を決め、担当者の発表に質問することでメンバー間での理解を促していく。

○実績値：文献調査実施せず

#### 【指標 2-1：定量評価目標】

○目標値：A1-1～B1-3 まで調査（前年なし）

#### 【検証方法】

令和5年度が初年度となる取組なので、まずは調査から開始する。

○実績値：調査実施せず

前総括コーディネーターの在職中に前述の調査は行われなかった。〈地域日本語教育の効果を高める取組〉の「①学習者へのアドバイジング」同様、年度後半から新たに取り組むには時間と人手が圧倒的に不足しており、同時に現体制において同取組実現は時期尚早で、優先順位の上位にはないと判断したためである。

## 2. その他、令和5年度事業の評価と検証方法

### 〈企業への日本語教師紹介〉

（定量評価）

今年度目標 5 社×5 人で 25 人（前年度まで 2 社）

実績 1 社×3 人

（定性評価）企業と外国人従業員へのアンケートから得た結果をもとに満足度を量る。

（検証方法）企業の日本語教育担当者や従業員、および受講者である外国人従業員へのアンケートを実施する。受講者に対するアンケートによると、全員が「勉強して前より日本語が上手になった」「日本での生活がスムーズに送れるようになった」と答え、勉強したことで「仕事場で困ることが少なくなった」「生活で不自由することが少なくなった」「日本の文化・習慣で分かることが増えた」と答えている。また、住んでいる場所について知りたいことが増えたと答えている人も多かった。全員がもっと勉強したいと答え、職場の人と話ができる、申し送りの読み書きができる、病院での会話や役所での手続きができるようになることを希望していた。日本語教室に対する満足度は高く、今後も継続して学びたいと考えていることが分かつ

た。

#### 〈市内日本語教室への助成〉

##### 【指標5：定量評価目標】

○目標値 5教室（前年度5教室）

○実績値 4教室

東灘日本語教室、北神日本語教室（NPO法人場とつながりの研究センター）、日本語教室だんらん（まなびと）、KFC日本語プロジェクト（神戸定住外国人支援センター）

住居の近くに日本語が学べる場所があることは、日本語が不自由な人々にとって大きな支えとなる。時間的にも金銭的にも余裕がない人々が安心して通える教室に対して自助努力を求めるだけではなく、助けを差し出すものである。

## 7 検証を踏まえた課題と今後の展望

### 1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

#### （1）検証を踏まえた課題

有資格の日本語講師による初級日本語クラスについては受講生の満足度はある程度得られているものの、出席率はあまり高くない。最初から最後までコンスタントに出席する受講生は半数程度で、申込だけして一度も出席しない、一二度出席しただけで来なくなってしまふ、気が向いた時だけ出席するといった受講生が珍しくない状況であった。事前に、授業には必ず出席するようにと注意を促すこともなく、出席に関して何ら制限をもうけなかったことも影響していると考えられる。今後は、開講前から出席に関する規則を明らかに示していくことが求められる。また、今年度はクラスの開始時期が5月にずれ込んだため、クラス数が減少した。来年度は4月から開始できるようにする必要がある。

新しい総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターによる授業見学と講師との意見交換、並びに教材『いろどり』の研修会を通して、コースデザイン、カリキュラムデザインにも無理があることが明らかになった。現行のカリキュラムでは教材『いろどり』が要求している内容を扱うことは難しいため、来年度からは1クールの時間数を大幅に増やしていかなければならない。

「コミュコミュ広場」や「日本語でおしゃべり」等の機会を通して、日本語学習者がクラス以外で日本語を使うことができるようになったが、まだまだ回数が不足している。さらに広報を強化し、実施方法や内容も工夫して継続拡大していかなければならない。また、こうした機会に日本語サポーターが活躍できるようにすることが求められている。

KICCの日本語サポーターは数的には十分のようだが、実際に稼働する人数は需要数を満たしていない。学習を求める人たちに機会を供給できるように、稼働可能なサポーター数を増やす必要がある。そのためにも、ボランティア養成講座が必要なのだが、今年度は実施できなかった。

地域の教室立ち上げについても今年度は実現できなかったが、これまでにない勢いで増加している外国人住民の実態を明らかにし、市内の日本語教室空白地域や、手薄な地域を確定し、教室立ち上げに動き出すことが急務である。

企業への日本語教師紹介も順調に進んでいるとは言えないので、さらに多くの企業に働きかけ、日本語教室の必要性を説いていく必要がある。

地域で暮らす日本語が不十分な人にとって、近くにある日本語教室が充実していることは大きな支えとな



る。また、初級日本語クラスを修了した学習者たちの受け皿としても地域の日本語教室は不可欠である。そうした教室への補助は継続していくべきだと考える。

## (2) 今後の展望

初級日本語クラスについては、出席率の向上を図るため、出席に関する規則を開講前から明確に示すことで、受講生の意識を高めることが期待される。また、クラス開始時期を4月に早めることによって、受講生の増加が見込まれる。さらに、カリキュラムの見直しを行い、来年度からはクラスの時間数を増やすとともに、教材の印刷配布を行うことで、教材の内容を省くことなく効果的な授業を実現できると考える。

「日本語でおしゃべり」の回数を増やし、日本語学習者が日常的に日本語を使える機会を提供するだけでなく、日本語サポーターや留学生ボランティアを活用することで、学習者の学習意欲の向上とコミュニケーション能力の向上が期待される。また、地域の生活に溶け込み、より充実した日々が送れるよう、KICCで日本語を学ぶ学習者が多文化共生事業にも積極的に参加するよう促していく。

教育人材の質の向上を図るためには、ボランティア養成講座の拡充や登録日本語講師対象の研修会を実施する。また、他の機関との連携を強化することで、地域の日本語教育のネットワークが強化され、資源の効果的な活用が可能となる。

やさしい日本語の普及や生活ルールを題材とした教材の開発を通じて、外国人とのコミュニケーションを円滑にするだけでなく、地域の生活にも貢献することが期待される。さらに、地域の行事への参画を促進することで、地域社会との結びつきを深め、相互理解を促進することになる。

SNSなどを活用した広報強化により、地域の住民に日本語教育に関する情報を広く周知することが期待されるだけでなく、これにより、地域の日本語教育の需要が高まり、参加者の増加が見込まれる。

## 2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

### (1) 課題と困難な状況への対応方法

(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修

#### 【3. 登録日本語講師ブラッシュアップ研修 (いろいろ 生活の日本語)】

#### 【4. 登録講師の授業見学及び指導】

KICCの初級日本語クラスでは教材『いろいろ 生活の日本語』(国際交流基金)の入門、初級1、初級2を使用して3レベルで授業を行っている。

10月以降、どのように授業が展開されているか『いろいろ』はどのように扱われているかを把握するために、新たな総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターが全ての登録講師の授業を見学した。その結果、教師によって教材の扱いがまちまちであるだけでなく、現行のカリキュラムでは教材を十分に消化できないことが明らかとなった。

そこで、「登録日本語講師ブラッシュアップ研修」として、教材の作成者の一人である国際交流基金の専任講師に講演をお願いした。講師のお話により、『いろいろ』を扱ううえで留意すべき点、授業の典型的な流れ等が明らかになり、登録講師が共通の考え方のもとに授業を展開できる基本が整った。

また、『いろいろ』のCan-doをきちんと消化するためにカリキュラムを改変する必要があることも周知のこととなり、来年度からのカリキュラム変更への理解も醸成できた。

【参考写真一覧】

取組番号	写 真 名
1-⑥-1	日本語ボランティアのための日本語サポーターフォローアップ講座
	

1-⑦-1	初級日本語クラス（三宮にほんごプラザ）
-------	---------------------

	
--	--

1-⑨-3

日本語でおしゃべり



1-⑩-2

やさしい日本語研修（神戸市婦人団体協議会会員向けの「やさしい日本語研修会」）



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
1-⑥-1	日本語サポーターフォローアップ講座 開催報告	○
1-⑥-3	登録日本語講師ブラッシュアップ研修 「いろいろ 生活の日本語」報告書	○
1-⑨-3	「日本語でおしゃべり」実施報告書 (第1回)	○
1-⑨-3	「日本語でおしゃべり」実施報告書 (第2回)	○
1-⑩-2	やさしい日本語研修会 アンケート集計	○